

# 日本政治学会 会報

The JPSA News

No.57

JUN.2009

## 日本政治学会 2009 年度研究会について — 政治学的パースペクティブのある研究集会を目指して —

2009年度企画委員長 辻中 豊

政治学会と関連する多くの専門学会が誕生し、積極的な活動を行うなか、日本政治学会はメタ学会としていかなる意義をもつべきなのでしょう。

政治学会も、ここ数年研究集会が急速に巨大化し、専門化が進んできました。専門的な研究はいうまでもなく重要ですが、政治学本来のあり方は、やはりひとりひとりの人間、市民と様々なレベルでの公共的決定を結ぶ学として、専門的な多元性と総合性の両方を兼ね備える必要があるのではないのでしょうか。政治理論や政治思想、政治哲学と歴史、政治史、また国際政治、国際関係や地球政治、地域研究や比較政治、地方自治、政治アクターや組織の分析、個々の政治過程、政策過程の分析、行政の組織や管理のあり方、公共政策の分析、政治家や政治的人間、市民の政治意識、政治的人格など、様々な専門的研究が行われるだけでなく、それらの間での専門性という垣根を越えた討議、議論も必要ではないのでしょうか。それが、政治の認識に遠近法をもたらし、これからの政治や社会への見通しをもたらすのでしょうか。こうした意味でいわばパースペクティブのある研究集会を提供できるのがメタ学会としての日本政治学会であり、また現在まさにそれが必要とされていると、企画委員会は考えました。

こうした考えから、今年の研究集会では、政治学と政治学会の意義を再考する、という柱を立てました。具体的には、共通論題で「変わる政治、変わる政治学」というテーマのもとに関連学会の理事長経験者に登場いただき、忌憚のない議論を行います。また公開シンポジウムでは「政治と政治学の間—丸山真男をひらく」と題して、刺激的

な報告と議論を展開する予定です。

企画委員会は、分科会の日程決定に際して、政治思想・政治理論、選挙・政治過程、行政学・公共政策、政治史、比較政治、国際政治・国際関係といった多様な分野と国内政治、外国政治、地球政治といったレベル、さらに制度論、政党論、市民社会論といったトピックスの重複をなるべく避け、バランスよく配置することを心がけました。専門性を重視する会員には分科会を時間割に沿って追いかけやすく、逆にいえばどの時間帯においても専門性を超えた多様な研究会に越境することが可能な配置となったと考えています。

今年度の企画に対して20件以上の自由応募、15件の分科会応募があり、企画委員会の企画とあわせて約40（国際企画など一部未定を含む）の分科会を開催する予定です。こうした多様な企画を受け入れる開催校の寛大さに厚く御礼申しあげます。

パースペクティブという言葉から、*Perspective on Politics* というアメリカ政治学会の機関誌を想起される方もいるでしょう。同学会は2003年から *American Political Science Review, PS* という2誌に加えこの機関誌を発行しています。それは、共通関心である重要な政治問題に対する政治学的な洞察を求めて、異なる分野間の対話と論争を導こうとする新しい試みでしょう。日本の政治学会も、相当な専門分化を深めた現在、こうした遠近法による見通しをもった研究集会、学会のあり方を模索する時期にきたのではないのでしょうか。

## 2009年度研究会プログラム

2009年度日本政治研究学会を下記の通りに開催しますので、できるだけ多くの会員の方がご出席くださいますよう宜しくお願いいたします。

日時：2009年10月10日（土）～12日（月）

場所：日本大学法学部（三崎町キャンパス：東京都千代田区三崎町2-3-1）

交通：JR：総武線・中央線「水道橋」駅下車 徒歩3～4分

：地下鉄：都営地下鉄三田線「水道橋」駅下車 徒歩3～4分

：地下鉄：都営地下鉄新宿線・三田線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車 徒歩5分

【第1日目】10月10日（土）

13：00～15：00 〈分科会A1～A7〉

### A1 拡大EUの「市民社会」問題—東欧革命20周年

司 会：川原 彰（中央大学）

報告者：明田ゆかり（慶應義塾大学）

「EUの視点から：EU加盟基準の「市民社会」概念をめぐる」

羽場久美子（青山学院大学）

「中・東欧の視点から：冷戦終焉20年の拡大EUと「市民社会」

討論者：山崎 望（駒沢大学）

### A2 内閣支持と投票行動

司 会：川人貞史（東京大学）

報告者：小林良彰（慶應義塾大学）

「内閣業績評価と投票行動」

平野 浩（学習院大学）

「2007年参院選における安倍首相評価と内閣支持」

山田真裕（関西学院大学）

「日本におけるswing voting」

松本正生（埼玉大学）

「内閣支持と政党支持」

討論者：川上和久（明治学院大学）

### A3 制度改革と地方政治の変化—デモクラシー、ガバナンス、パフォーマンス

司 会：北原鉄也（大阪市立大学）

報告者：今井 照（福島大学）

「市町村合併に伴う自治体政治動向について」

北村 亘（大阪大学）

「制度改革と地方政治の変化—財政的側面を中心に」（仮）

村上祐介（日本女子大学）

「教育政策からみた地方制度改革の効果と地方政治の変容」

討論者：牛山久仁彦（明治大学）

### A4 転換期の政党政治

司 会：五百旗頭真（防衛大学）

報告者：福元健太郎（学習院大学）

村井良太（駒澤大学）

「戦前内閣の生存分析：議会・軍部との関係を中心に」

尹秀敬（東京大学）

「新党存続のロジック—90年代以後の日本民主党を事例に」

菅谷幸浩（学習院大学）

「大政翼賛会をめぐる政治対立の再検討—第二次近衛内閣・宮中の対応を中心に」

討論者：品田 裕（神戸大学）

伊藤之雄（京都大学）

### A5 民主主義とガバナンス

司 会：坪内 淳（山梨大学）

報告者：岩崎正洋（日本大学）

「民主主義とガバナンスの相克」

木暮健太郎（杏林大学）

「民主主義的なガバナンスと正統性をめぐる問題」

西岡 晋（金沢大学）

「言説・ガバナンス・民主主義—熟議型政策分析の視角から」

# 学 会 ニ ュ ー ス

西山真司（名古屋大学）

「民主主義とガバナンスの関係性を論じるための理論的視座—信頼論を基礎にして」

討論者：松田憲忠（北九州市立大学）

佐川泰弘（茨城大学）

## A6 転換期の政治のコンセプトとコンテクスト

司 会：太田義器（摂南大学）

報告者：村田 玲（早稲田大学）

「現代政治と「マキアヴェリズム」の本質」

井上弘貴（早稲田大学）

「ジョン・デューイからみるアメリカ政治思想のコンテクスト」

金井隆典（日本大学）

「植木枝盛と「第二の維新」」

片山慶隆（一橋大学）

「陸羯南の「価値ある言論」に関する考察」

討論者：大久保健晴（明治大学）

小田川大典（岡山大学）

安武真隆（関西大学）

## A7 人道的介入をめぐる国際政治思想

司 会：石田 憲（千葉大学）

報告者：三宅麻理（成蹊大学）

「J.S.ミルにおける内政不干涉原則の再検討」

松元雅和（慶応義塾大学）

「ウォルツァーの人道的介入論とその展開」

北村 治（財）政治経済研究所）

「正義のための介入、デモクラシーのための介入」

討論者：萩原能久（慶応義塾大学）

遠藤誠治（成蹊大学）

15：30～17：30 <共通論題>

変わる政治、変わる政治学：政治学会への期待と注文

司 会：辻中 豊（筑波大学）

報告者：藤原帰一

（東京大学・日本比較政治学会前会長）

「比較政治・国際政治の観点から」（仮）

加藤 節

（成蹊大学・政治思想学会前代表理事）

「政治思想の観点から」（仮）

田中愛治

（早稲田大学・日本選挙学会前理事長）

「選挙の観点から」（仮）

足立幸男

（関西大学・日本公共政策学会元会長）

「公共政策の観点から」（仮）

討論者：山口二郎

（北海道大学・日本政治学会理事長）

18：00～20：00（予定）

懇親会

【第2日目】10月11日（日）

9：30～11：30 <分科会B1～B7>

## B1 執政制度と政策選択

司 会：待鳥聡史（京都大学）

報告者：高安健将（成蹊大学）

「集権的な政策運営を可能にする議院内閣制？」

津田憂子（早稲田大学）

「ロシア大統領制下の政策決定プロセスの特徴」

松本俊太（名城大学）

「アメリカ大統領の政策アイデアと沈黙とレトリック」

討論者：網谷龍介（明治学院大学）

## B2 政治社会における利害の集約・表出過程：政治家・政党・利益団体

司 会：森 裕城（同志社大学）

報告者：飯田 健（早稲田大学）

上田路子（カリフォルニア工科大学）

松林哲也（ノーステキサス大学）

「世襲議員と民主政治」

上神貴佳（高知大学）

「なぜ政党は必要か：大規模な代議制民主主義と政党」

山本英弘（筑波大学）

「利益団体のロビー活動：戦術の多  
様性と政治的機会構造」

討論者：谷聖美（岡山大学）

## B3 道州制の可能性

司 会：笠 京子（明治大学）

報告者：縣公一郎（早稲田大）

「ドイツ連邦国家にみる州制の実  
際」

荒田英知（PHP総研主席研究員）

「政府、自民党の道州制案」

土岐 寛（大東文化大）

「道州制と大都市制」

討論者：増島俊之（聖学院大）

## B4 戦時日本の国際認識と論策—日中戦争から 太平洋戦争へ

司 会：酒井正文（平成国際大学）

報告者：坂本健蔵（平成国際大学）

「永井柳太郎の日華提携論—日中  
戦争から対米英戦争へ」(仮)

伊藤信哉（松山大学）

「昭和10年代における米田實の対  
外認識」(仮)

澤田次郎（拓殖大学）

「徳富蘇峰と日米戦争」(仮)

討論者：吉田博司（聖学院大学）

長谷川雄一（東北福祉大学）

## B5 シティズンシップの歴史とフロンティア

司 会：岡本仁宏（関西学院大学）

報告者：的射場敬一（国土館大学）

「シティズンシップの歴史的展開」

丸山正次（山梨学院大学）

「エコロジカル・シティズンシッ  
プ」

山田竜作（日本大学）

「グローバル・シティズンシップ」

討論者：寺島俊穂（関西大学）

木部尚志（国際基督教大学）

## B6 国家と世界秩序

司 会：佐藤正志（早稲田大学）

報告者：三牧聖子（東京大学）

「無政府状態はどう乗り越えられ  
るのか—現実主義者の世界政府  
批判」

安武真隆（関西大学）

「帝国、勢力均衡、国家理性：マキ  
アヴェッリからリシュリューへ」

討論者：押村 高（青山学院大学）

松森奈津子（静岡県立大学）

## B7 国際金融危機への対応：東アジアの対応を 中心に

司 会：鈴木一人（北海道大学）

報告者：大西 裕（神戸大学）

「韓国の対応について」(仮)

大庭三枝（東京理科大学）

「東アジア地域の対応について」  
(仮)

土佐弘之（神戸大学）

「ネオリベラル思想・運動につい  
て」(仮)

討論者：鈴木一人（北海道大学）

※11：30から13：30の間に総会（30分～1時間程  
度）を行う予定です。

13：30～15：30 〈分科会C1～C6〉

## C1 市民社会におけるシティズンシップとエン パワーメント

司 会：神江伸介（香川大学）

報告者：関根政美（慶應義塾大学）

「オーストラリアにおけるシティ  
ズンシップとエンパワーメント」

新川敏光（京都大学）

「カナダにおけるシティズンシッ  
プとエンパワーメント」

浪岡新太郎（明治学院大学）

「フランスにおけるシティズン  
シップとエンパワーメント」

討論者：小林良彰（慶應義塾大学）

## C2 無党派層の再考と政党研究

司 会：油川 洋（尚絅学院大学）

報告者：花岡信昭（拓殖大学）

「無党派層の動向を考える」

遠藤浩一（拓殖大学）

「無党派層と政党構造の変化」

荒木義修（武蔵野大学）

「無党派の出現と政党の存在理由」

討論者：石生義人（国際基督教大学）

「政治的なるものと文革の残響—  
その中国辺境における思想史的  
意味」

鈴木規夫（愛知大学）

「世界政治論におけるイスラーム  
政治神学—デリダ後の政治的なる  
ものへの余白に」

討論者：吉岡知哉（立教大学）

## C3 アイディア・言説アプローチによる政策分析

司 会：近藤康史（筑波大学）

報告者：加藤雅俊（北海道大学）

「現代政治学におけるアイディア的  
転回の意義と限界—ポスト実証  
主義的アプローチの理論的可能  
性と経験分析への適応可能性」

金 基成（山梨大学）

「EUの気候変動政策とエコロジー  
的近代化」

渡邊智明（九州大学）

「転換期の環境政治と政策—アメ  
リカ・ドイツの廃棄物/リサイク  
ル政策を事例に」

討論者：内山 融（東京大学）

丸山正次（山梨学院大学）

## C6 民主化・内戦・国際規範—秩序の形成要因

司 会：大矢根聡（同志社大学）

報告者：高橋百合子（神戸大学）

「民主化過程における制度改革に  
関する一考察：メキシコのアカ  
ウンタビリティー制度改革の実  
証分析」

大村啓喬（大阪大学）

「天然資源の価格変動と武力紛争  
のエスカレーション」

柳 始賢（一橋大学）

「国際条約における規範の有効性  
—オタワ・プロセス（ICBL）とオ  
スロ・プロセス（クラスター爆  
弾禁止条約）の考察を中心とし  
て（仮）」

討論者：小林 誠（お茶の水女子大学）

足立研幾（立命館大学）

## C4 戦前・戦中期の日本政治分析

司 会：増田知子（名古屋大学）

報告者：小森雄太（明治大学）

「政軍関係の新制度論的分析」

佐々田博教（立命館大学）

「統制会・業界団体制度の発展過程  
—経路依存とアイディア」

小南浩一（北陸大学）

「資本主義を超えて—賀川豊彦の  
社会運動論」

討論者：雨宮昭一（獨協大学）

16：00～18：00 〈分科会D1～D7〉

## D1 政党と再分配：多国間比較によるアプローチ

司 会：森 裕城（同志社大学）

報告者：山村岳央（東京大学）

「再分配政策の多様性：比較の視座  
からみた日本型再分配レジーム  
の特質と起源」

大村華子（京都大学）

「政党のコミットメントの信頼性：  
OECD諸国の政党に関する継時  
的分析」

討論者：河野 勝（早稲田大学）

## C5 「政治的なるもの」の再検討

司 会：渡辺守雄（九州国際大学）

報告者：小嶋祐輔（慶応義塾大学）

## D2 政党支持の比較政治

司 会：待鳥聡史（京都大学）  
報告者：高橋善隆（跡見学園女子大学）  
「ヒスパニック系移民と現代アメリカ政治」  
長富一暁（慶應義塾大学）  
「イギリスにおける地理的投票仮説についての研究の最新動向」  
討論者：待鳥聡史（京都大学）

## D3 現代日本政治分析

司 会：北原鉄也（大阪市立大学）  
報告者：上久保誠人（早稲田大学）  
「官邸主導と省庁：小泉政権下の財政改革を事例として」  
水谷利亮（高知短期大学）  
「複線型自治制度における都道府県の出先機関の実態と機能分析」  
庄司貴由（慶應義塾大学）  
「安全確保の挫折：国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）に対する日本警察派遣政策過程」  
討論者：松並 潤（神戸大学）

## D4 制度デザインの政治学

司 会：秋吉貴雄（熊本大学）  
報告者：北山俊哉（関西学院大学）  
「歴史的制度論の観点から（仮）」  
曾我謙悟（神戸大学）  
「合理的制度論の観点から（仮）」  
徳久恭子（立命館大学）  
「アイディアの政治の観点から（仮）」  
討論者：久米郁男（早稲田大学）

## D5 新外交と中道政治の展開—芦田均の戦前と戦後—

司 会：福永文夫（獨協大学）  
報告者：植田麻記子（慶應義塾大学）  
「芦田均の政治外交論—『国民外交』と『中道政治』」  
矢嶋 光（大阪大学）  
「外交官芦田均—新外交とその国

際政治観の形成」

討論者：雨宮昭一（獨協大学）  
服部龍二（中央大学）

## D6 デモクラシーと政治空間の変容

司 会：杉田 敦（法政大学）  
報告者：吉田 徹（北海道大学）  
「主役なきデモクラシー？：EUデモクラシー、ヨーロッパ的近代と「普遍」の隘路（仮）」  
五野井郁夫（日本学術振興会）  
「ラディカル・デモクラシーと政治空間の創出（仮）」  
高橋良輔（佐賀大学）  
「コスモポリタニズムとデモクラシー：二つの政治空間の捻じれと摩擦（仮）」  
討論者：細井優子（現代文化研究所）  
山崎 望（駒澤大学）

## D7 日本リベラリズムの可能性を問う

司 会：米原 謙（大阪大学）  
報告者：松田宏一郎（立教大学）  
「陸羯南」  
織田健志（関西大学）  
「長谷川如是閑」  
苅部 直（東京大学）  
「丸山眞男」  
討論者：平石直昭（東京大学）

## 13：30～17：30 政治学のフロンティア（ポスターセッション）

福井英次郎（慶應義塾大学）  
「世論調査分析による日本におけるEU認識」  
尾崎敦司（早稲田大学）  
「政権党の連立組みかえとその経済投票への効果」  
高浦 一（中央大学）  
「エマニュエル・レヴィナスと政治的なもの—歓待の政治哲学—」  
岸田絵美（神戸大学）

「二国間通商交渉に関する比較制度分析—「2レベル・ゲーム」モデルに基づくEPA締結交渉力学の分析」

中村悦大 (愛媛大学)  
「政治学の新しいアプローチ」  
討論者：前田幸男 (東京大学)  
飯田 健 (早稲田大学)

## 【第3日目】10月12日(月・祝日)

10:00~12:00 (分科会E1~E7)

### E1 政党システム変化の分析視角

司 会：岩崎正洋 (日本大学)  
報告者：荒井祐介 (東京工業大学)  
「政党システム変化に関する指標の設定」  
篠崎英樹 (神戸大学)  
「アルゼンチンの政党システムの変容」  
高藤英樹 (日本医療科学大学)  
「マレーシアにおける政党システムの変化の可能性について」  
討論者：三竹直哉 (駒澤大学)  
木暮健太郎 (杏林大学)

### E2 候補者の選挙戦略の諸相

司 会：谷口将紀 (東京大学)  
報告者：堤 英敬 (香川大学)  
「候補者公約の変容と継続」  
上ノ原秀晃 (東京大学)  
「政権選択選挙における候補者のメディア戦略」  
鶴谷将彦 (立命館大学)  
「小選挙区制導入以降の国会議員と市長の関係」  
討論者：市川太一 (広島修道大学)

### E3 マルチメソッド化する政治学：政治学方法論の現状と未来

司 会：山田真裕 (関西学院大学)  
報告者：今井耕介 (プリンストン大学)  
「統計分析の現状と未来」  
相田真彦 (Greenberg Quinlan Rosner)  
「調査の現状と未来」  
谷口尚子 (東洋大学)  
肥前洋一 (北海道大学)  
「実験的手法の現状と未来」

### E4 日本における再分配の政治：政治史と政治思想史の接点として

司 会：五百旗頭薫 (東京大学)  
報告者：河野有理 (首都大学東京)  
「徳川末期・明治期に関して」  
大木康充 (吉林華僑外国語学院)  
「大正期・昭和戦前期に関して」  
中北浩爾 (立教大学)  
「昭和戦後期に関して」  
討論者：苅部 直 (東京大学)

### E5 米国地方自治体の動向と課題

司 会：藤本一美 (専修大学)  
報告者：浅野一弘 (札幌大学)  
「マサチューセッツ州の危機管理体制」  
邊牟木廣海 (インディアナ州政府)  
「インディアナ州における日本企業の直接投資」  
討論者：根本俊雄 (専修大学)  
宗像 優 (九州産業大学)

### E6 近現代帝国・大国の変容と帝国主義論の再検討

司 会：増田知子 (名古屋大学)  
報告者：渡辺 治 (一橋大学)  
「現代日本の帝国主義復活志向の挫折」  
梅川正美 (愛知学院大学)  
「イギリス帝国と現代」  
討論者：小野塚知二 (東京大学)  
平野 聡 (東京大学)

### E7 国内政策転換の国際的波及

司 会：石田 淳 (東京大学)  
報告者：西崎文子 (成蹊大学)  
「アメリカの事例(仮)」  
小川浩之 (愛知県立大学)

---

# 学 会 ニ ュ ー ス

---

「イギリスの事例(仮)」

浅野 亮(同志社大学)

「中国の事例 (仮)」

討論者：石田 淳 (東京大学)

13:00～15:00 〈公開シンポジウム〉

政治と政治学の間—丸山眞男をひらく—

司 会：山口二郎

(北海道大学・日本政治学会理事長)

基調報告：川原 彰 (中央大学)

「戦後精神のバトンタッチ：丸山眞

男・藤田省三と戦後政治学の射

程」

パネラー：齋藤純一 (早稲田大学)

「複数性の政治理論の視点から」

小川有美 (立教大学)

「深層思想史的方法の視点から」

宇野重規 (東京大学)

「希望学の視点から」

吉田 徹 (北海道大学)

「小文字の〈政治〉学の視点から」

五野井郁夫 (日本学術振興会)

「異端の精神史の視点から」



## 研究大会報告論文の公開・入手方式について

### 日本政治学会事務局

2008年度研究大会より、報告論文をウェブページ上に公開したうえで、ダウンロードにより会員が各自でご入手いただく方式を採用し、これにともない研究大会期間中の報告論文の販売は行なわないことといたしました。これは、従来、販売・頒布用の報告論文の印刷をお願いしておりました報告者の方々の負担軽減などを目的とした措置です。本年度も昨年度と同様の方式を採用させていただきます。

なお、ウェブページを経由した報告論文へのアクセスは会員の方々に限定させていただきます。準備が整い次第、会員の皆様には閲覧・ダウンロードのためのパスワードをお知らせいたします。また、報告論文の閲覧・ダウンロード期間は、研究大会期間をはさんでその前後約2週間ずつを予定しております。

以上、昨年度と同様、今年度も皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 2009年度韓国政治学会派遣報告者募集

### 国際交流委員長 杉本 稔

2009年度韓国政治学会冬季大会（12月初旬開催予定）に日本政治学会からの派遣報告者を2名公募致します。今回は、日本国際交流基金の助成を受けた韓国政治学会の企画に沿う形で、派遣を行います。

使用言語：日本語（同時通訳の予定）

参加パネル：10年間の日本政治の変化（仮）：特に、①政党の政策性向、②有権者の投票行動の特徴、③国会議員の政治性向、④外交政策、⑤政策決定プロセスの特徴、分野での研究を、優先

的に歓迎します。

費用：交通費・宿泊費・参加費等は、韓国政治学会が負担します。

応募要領：2009年7月31日（金）必着で、電子メールにより報告内容の要旨（日本語）を下記までご連絡下さい。応募者多数の場合は国際交流委員会で選考し、結果は8月中旬までにお知らせ致します。

応募先：日韓交流小委員長 磯崎典世（学習院大学法学部）

Noriyo.Isozaki@gakushuin.ac.jp

## 『年報政治学』独立論文公募のお知らせ

査読委員会委員長 小川 有美

『年報政治学』では、論文を公募しています。投稿された論文は査読による審査の上掲載が決定されます。審査を公正かつ迅速に行うため、査読委員会が設置されています。査読委員会は、正副委員長のほか5名の委員によって構成され、会員の中から査読を担当する査読者を選び、査読結果にもとづいて掲載論文を確定いたします。

公募論文は、「特集」テーマに関連した「特集論文」と、特定のテーマにとらわれない「独立論文」の2種類に区分されます。このうち「独立

論文」は、特定の締切り期日を設けず受け付けています。ただし編集の都合上、2009年度第Ⅱ号（2009年12月刊行予定）に掲載を希望される会員は、2009年3月31日までに下記の送付先に原稿をご提出ください。論文の投稿に関してくわしくは、日本政治学会ホームページ、または会報50号に掲載されている「論文投稿規程」および「査読委員会規程」をご覧ください。

### \* 原稿送付先：

〒171-8501

東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学法学部 小川有美研究室

投稿用メールアドレス nennpou@mbn.nifty.com

### \* 投稿規程

独立論文・特集論文ともに学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/jpsa2/publication/nennpou/index.html>）に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて上記へ送付して下さい。投稿規程により、未発表でない論文、論文の分量（注、参考文献、図表を含め原則20,000字以内）を超過している論文、また応募の時点で当該年度の会費を納入済みでない会員の論文は、受理できない場合がありますので、投稿前に必ず規程をご確認ください。

### \* 論文の投稿申込書について

公募論文の投稿に際しては、「投稿申込書」の提出が必要となります。投稿申込書は、投稿論文と共にメールに添付して、査読委員会へお送りください。なお、投稿申込書は学会ホームページからダウンロードできますので、ご利用ください。

## 『年報政治学』2010年度第Ⅰ号特集論文公募のお知らせ

2010年度第Ⅰ号年報委員長 中 邨 章  
査読委員会委員長 小 川 有 美

2010年度Ⅰ号のテーマを「政治と行政に関する信頼メカニズムの解明と分析（仮題）」といたしました。近年、市民の間で政治や行政に対する信頼が低下する傾向がみられます。市民と政治や行政との間に最低限の信頼がなければ、デモクラシーそのものが成立しないことは言うまでもありません。また、政治と行政に対する信頼は公共セクターが行う活動のコストや政策効果に大きく関わってきます。さらには、これからのガバナンスを考えるにあたっては、あらゆる政策分野でNPO等の市民セクターとの協働を抜きに考えることは難しく、信頼の構築は、ガバナンスの土台

を構築することとほぼ同義であるといっても過言ではありません。

年報委員会では、このテーマに関する研究論文の投稿を広く日本政治学会会員から募りたいと思います。多くの方々からのすぐれた論考を期待します。

なお、原稿締め切りは2009年10月31日とし、学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpsa2/>) に掲載されている投稿規程に則り、投稿原稿はメールおよび郵送にて前述の査読委員会あてにご送付下さい。

## 『年報政治学』2010年度第Ⅱ号特集論文公募のお知らせ

2010年度第Ⅱ号年報委員長 岩本美砂子  
査読委員会委員長 小 川 有 美

2010年度第Ⅱ号（2010年12月刊行予定）のテーマを、「ジェンダーと政治過程」といたしました。選挙・連立交渉・政策立案過程などの政治過程に関して、ジェンダーの視点を入れた分析が有効な事例研究や、政治ないし政治学におけるジェンダーの視点に関する理論研究等、「ジェンダーと政治過程」に関連した論文を広く日本政治学会会員から募ります。比較政治学、政治史などのアプローチによる論文も歓迎します。特集は「ジェン

ダーと政治過程」に関連するものに限定させて頂きます。「セクシャリティと政治」の分析などは、特集の範囲外で独立論文として応募されるようお願いいたします。

原稿の締切は2010年3月31日とします。投稿原稿は学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpsa2/>) に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付下さい。

## 日本政治学会 2008年度第3回理事会議事録

日時：2008年12月13日（土）13時30分～15時30分

場所：学士会館分館会議室

第3回理事会においては、以下の事項が報告・協議された。

### 1. 各種委員会報告

#### ① 年報2008-Ⅱ号編集委員会

稲継委員長（空井常務理事代読）より、予定通り12月10日付で年報2008-Ⅱ号が刊行されたことが報告された。

#### ② 年報2009-Ⅰ号編集委員会

川人委員長（空井常務理事代読）より、編集作業が順調に進んでいることが報告された。

#### ③ 年報2009-Ⅱ号編集委員会

大串委員長より、編集作業が順調に進んでいることが報告された。

#### ④ 年報2010-Ⅰ号編集委員会

中邨委員長（西川理事代理報告）より、橋本信之（関西学院大学）、池田謙一（東京大学）、大山耕輔（慶応義塾大学）、秋月謙吾（京都大学）、小池治（横浜国立大学）、西川伸一（明治大学）、菊地端夫（明治大学）の各氏を委員に選出したこと、2回の委員会会合をもち、2009年度科研費申請を行ったことが報告された。

#### ⑤ 年報2010-Ⅱ号編集委員会

岩本委員長より、「ジェンダーと政治過程」を特集テーマに設定し、企画作業を進めていることが報告された。

#### ⑥ 査読委員会

小川委員長より、年報2009-Ⅰ号応募論文として受理した24本の論文の査読を進めていること、および各号掲載公募論文数や紙幅、論文投稿規程の文言など、今後検討を加えてゆべき点があることが報告された。

#### ⑦ 2009年書評委員会（年報2009-Ⅰ号掲載分）

飯島委員長（空井常務理事代読）より、作業が順調に進んでいることが報告された。

#### ⑧ 2008年文献委員会（年報2008-Ⅱ号掲載分）

岩本委員長より、無事に作業を終えたことが

報告された。

#### ⑨ 2009年文献委員長（年報2009-Ⅱ号掲載分）

藤井委員長より、以下の各氏を委員に選出したことが報告された。青木一益（富山大学、政治学・政治理論）、中村昭雄（大東文化大学、政治過程）、外山公美（日本大学、行政学・地方自治）、吉田博司（聖学院大学、政治思想 [日本・アジア]）、中村孝文（武蔵野大学、政治思想 [欧米]）、小南浩一（北陸大学、政治史 [日本]）、永井良和（拓殖大学、政治史・比較政治 [西欧・北欧]）、藤本一美（専修大学、政治史・比較政治 [北米]）、松下洋（京都女子大学、政治史・比較政治 [中南米]）、永山博之（広島大学、政治史・比較政治 [ロシア・東欧]）、石井貫太郎（目白大学、政治史・比較政治 [アジア]）、青木一能（日本大学、政治史・比較政治 [アフリカ]）。

#### ⑩ 2009年度企画委員会

辻中委員長より、委員会構成、開催期間に関する開催校（日本大学）の要望、企画に関する委員会での検討状況が報告された。ついで現在の研究大会のあり方について種々意見交換が行われ、山口理事長より、この点については引き続き理事会で検討を加え、その結果を2010年の研究大会に反映させるとの方針が提案され、これが了承された。

#### ⑪ 国際交流委員会

杉本委員長より、韓国政治学会研究大会への会員2名（浅羽祐樹会員・真淵勝会員）の派遣事業が完了したことが報告された。ついで同じく杉本委員長より、韓国政治学会より来年度の研究大会において5名の会員を相互に派遣する形で大規模な研究交流を行いたい旨の申し出があったことが報告され、種々意見交換ののち、杉本委員長と山口理事長を中心に対応を協議することとなった。さらに信夫日米交流小委員長より、アメリカ政治学会との報告者相互派遣停止に伴う措置として、来年度のアメリカ政治学会研究大会に報告者として参加する若手研究者若干名に対し、1名あたり10万円を限度に派遣

費用（旅費・宿泊費）を補助すべく公募を行うことが提案され、これが了承された。

## ⑫ 研究交流委員会

河野委員長より、以下の各氏を委員に選出したことが報告された。田村哲樹（名古屋大学、政治理論）、山岡龍一（放送大学、政治思想）、河野武司（慶應義塾大学、政治過程）、外山公美（日本大学、行政学・地方自治）、木村幹（神戸大学、比較政治）、岡山裕（慶應義塾大学、政治史）、坪内淳（山梨大学、国際政治）。また、分野別研究会の新規募集締切を2009年1月8日、研究大会での分野別研究会の申請締切を2009年1月31日にそれぞれ設定したことが報告された。

## ⑬ 日本政治学会倫理綱領（仮称）に関する検討小委員会

岩本委員長より、岡野理事、越智理事、島袋理事、杉田理事を委員に選出したことが報告され、さらに今後、当初予定されていた来年度総会における綱領制定にこだわらず、理事会開催に合わせて講師を招いての勉強会を催し、理事の間で問題認識を共有したうえで検討を進めてゆくとの方針が提案され、これが了承された。

## ⑭ 英文雑誌刊行に関する小委員会

小野委員長（空井常務理事代読）より、委員の選出状況と韓国政治学会との交渉状況が報告された。ついで、2010年の刊行を目指して機動的に活動するために、来年度の国際交流基金予算に委員会初年度経費として20万円を計上してもらいたいとの要望が示され、これが了承された。さらに、年度内に予定される小野委員長の訪韓に伴う経費には、本年度国際交流基金予備費を充てることが承認された。

## ⑮ IPSA執行委員の選出方法についての検討小委員会

山口委員長より、杉本国際交流委員長、田中愛治会員、空井常務理事の4名で委員会を構成することが報告された。

## 2. 日本政治学会顧問の委嘱について

山口理事長より、小林良彰前理事長への日本政治学会顧問の委嘱が提案され、これを承認した。

## 3. IPSA学会賞受賞候補者の推薦について

河田IPSA学会賞受賞候補者選考委員会委員長より選考経緯の報告ののち、日本政治学会として、中西寛会員を「高坂正堯賞」受賞候補者に、また大串和雄会員を「グローバル・サウス賞」受賞候補者にそれぞれ推薦することが提案され、これが了承された。

## 4. 『年報政治学』の電子アーカイブ化について

山口理事長より、岩波書店との交渉経緯の報告ののち、合意の内容について覚書を同書店と交わすこと、また同書店が年報の電子アーカイブ化と一般公開を許可することに対し支払う謝礼金10万円には、本年度一般会計予備費を充てることが提案され、これを承認した。また山口理事長より、電子アーカイブ化に際しては、不許可の意思表示を行った著作権者の論攷以外は電子アーカイブに収め、著作権者から異議が唱えられた場合にはすみやかにその論攷を削除する方針で臨むことが提案され、これが了承された。

## 5. 『年報政治学』会員頒布分不足状況への対応について

空井常務理事より、新入会者の増大に伴い会員頒布分の年報政治学が不足している状況に対応すべく、年報2008-I号と年報2008-II号を各100部、それぞれの定価に0.729（標準制作経費÷会員頒布部数÷標準定価）を乗じた価格で木鐸社より買上げる措置を講じたことが報告された。ついで山口理事長より、これによって生じる経費367,416円には本年度一般会計予備費を充てることが提案され、これを承認した。

## 6. 木鐸社との覚書の改訂について

山口理事長より、現行の覚書のうち標準頁数、標準定価、会員頒布部数、標準制作経費の部分を実態に即した形に改め、また今後、木鐸社版の年報政治学を電子アーカイブ化することを視野に入れた新項目を追加するために、木鐸社との協議に入る提案され、これが了承された。

## 7. 学会の法人化問題について

山口理事長より、新公益法人法の施行状況と、

それを踏まえた12月13日開催の法人化検討小委員会における検討状況についての報告ののち、他の学協会の動向を見極めつつ法人化の必要性につき引き続き検討を進めてゆくとの方針が示され、これが了承された。

## 8. 入退会承認について

以下の19名の各氏を新・再入会員として承認した（事務局受付順、敬称略）。なお、推薦者署名欄空欄の入会申込書を提出した1名については、入会を承認しないこととした。

一般会員（8名）

吉田健一、上原直人、田中仁、後藤新、柏原宏紀、金子優子、今里佳奈子、李晚熙

学生会員（11名）

石黒大岳、小森雄太、久保田哲、織田健志、上田健一、大村啓喬、佐々木太郎、高田宏史、鄭子

真、鶴谷将彦、上原賢司

前回理事会時の会員数1733名、その間の退会者はなく、今回の入会承認者19名を加えた結果、現在会員数は1752名となった。

## 9. 次回理事会の開催について

山口理事長より、次回の第4回理事会は2009年3月14日（土）、13時より、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W301号室にて開催することが提案され、これが了承された。

## 10. 事務局報告

空井常務理事より、会報第56号出来の報告、来年度予算編成作業についての説明、および理事会における配布資料の準備につき各種委員会委員長に対する協力要請が行われた。

## 日本政治学会 2008年度第4回理事会議事録

日時：2009年3月14日（土）13時00分～15時40分  
場所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟  
W301号室

第4回理事会においては、以下の事項が報告・協議された。

### 1. オブザーバーの出席について

山口理事長より、議題4に関連して石上泰州前幹事のオブザーバーとしての出席をお認めしたいとの提案があり、これを承認した。

### 2. 各種委員会報告

#### ① 年報2009-I 編集委員会

川人委員長（空井常務理事代読）より、特集「民主政治と政治制度」の論文6本を3月初旬に木鐸社に送付したこと、また委員会としては当初の予定どおり6月に年報が刊行されるものと考えていることが報告された。

#### ② 年報2009-II 編集委員会

大串委員長より、編集作業は順調に進んでおり、6月に委員からの初稿の提出、7月に読み

合わせのための合宿の開催をそれぞれ予定していることが報告された。

#### ③ 査読委員会

小川委員長（空井常務理事代読）より、(i) 年報2009-I号に関し公募論文の募集を行い、査読・再査読と査読委員会による最終審査を経て9本の独立論文の掲載を決定したこと、(ii) 査読者や投稿者から寄せられた質問や意見を踏まえ、年報年2回発行体制のもとでの査読体制の課題とその改善策につき委員会で検討を進める方針であることが報告された。

#### ④ 2009年書評委員会（2009-I号掲載分）

飯島委員長より、(i) 2月中旬に書評原稿を木鐸社に送付したこと、(ii) 委員から現在の分量（2000字）では紙幅が足りないため、3000字程度に増やすべきであるとの意見が出されたことが報告された。

#### ⑤ 2010年書評委員会（2010-I号掲載分）

羽場委員長より、(i) 飯島2009年書評委員長との間での引継ぎ作業が終了し、目下委員の選任作業を進めていること、(ii) 書評の字数ならびに書評対象冊数を増やす方向で検討して

ゆく方針であることが報告された。

## ⑥ 2009年文献委員会（2009-II号掲載分）

藤井委員長（空井常務理事代読）より、(i) 政治思想（日本・アジア）分野に関し吉田博司氏（聖学院大学）から沢田次郎氏（尚美学園大学）へ、また政治史・比較政治（中南米）分野に関し松下洋氏（京都女子大学）から浦部浩之氏（獨協大学）へと委員を変更したこと、(ii) 国際政治分野に関して酒井英一氏（関西外国語大学）をあらたに委員に選任したことが報告された。

## ⑦ 2009年度企画委員会

辻中委員長より、35の分科会枠のうち33枠（分科会32とシンポジウム1）につき構成が確定したことが報告された。ついで、(i) 現在3件の応募にとどまっているポスター形式の「政治学のフロンティア」に関し、7月末締切でホーム・ページや会報を通じて再公募を行うこと、(ii) 共通論題に関し、今後さらに企画立案作業と具体的人選を進めてゆくことが提案され、これが了承された。さらに辻中委員長から、研究大会終了後も2週間程度、提出論文のダウンロードを可能にする措置を講じたい旨の提案があり、審議の結果、これを承認した。

## ⑧ 国際交流委員会

信夫日米交流小委員長より、本年のアメリカ政治学会研究大会に報告者として参加する若手研究者若干名に対する派遣費用補助の公募を行っていることが報告された。ついで杉本委員長より、(i) 11月26日～29日にモスクワで開催予定の第5回ロシア政治学会への派遣会員募集に対し1名（岩下明裕会員）の応募があったこと、(ii) イギリス政治学会が日本政治学会への派遣研究者を募集中であるものの、いまだに応募者は現れていないこと、(iii) 韓国政治学会につき、以前申し出のあった5名の相互派遣による大規模な研究交流は対応困難であると判断したが、協定に基づいて行われている2名の相互派遣事業との関係について注意が必要であること、(iv) 台湾政治学会から「公共政策学の教育面」に関する会議参加者募集の依頼があったが、日本側では応募者がゼロであったこと、ならびに本年の研究大会には台湾政治学会

から1名の研究者を招聘すること、(v) 中国政治学会（中華人民共和国）につき、高原日中交流小委員会委員長のもとで協定締結交渉が進展しており、順調に進めば4月半ばに協定を結び、次回の理事会においてその旨報告できる見込みであることが報告された。

## ⑨ 研究交流委員会

河野委員長より、(i) 分野別研究会の新規募集に対し1件の応募（「政治学方法論研究会」、責任者・山田真裕会員）があり、政治過程分野の研究会として承認したこと（責任者の任期は2011年1月末まで）、(ii) 2009年度研究大会における分科会設置の募集に対し5件の応募があり、そのすべてを研究交流分科会セッションとして承認し、企画委員会にその旨通知したことが報告された。また、5件の研究交流分科会セッションのうち1件において報告者4名中2名が非会員であることに関し、学会としての対応が協議され、非会員に対し入会を要請してゆくことが確認された。

## ⑩ 選挙管理委員会

大河原委員長より、(i) 伊藤洋典（熊本大学）、岡崎晴輝（九州大学）、熊野直樹（九州大学）、廣澤孝之（福岡大学）の各会員を選挙管理委員に選任したこと、(ii) 日本政治学会理事・監事選出規程に定めるスケジュールに従って選挙を実施する予定であることが報告された。

## ⑪ 日本政治学会倫理綱領（仮称）に関する検討小委員会

岩本委員長より、委員会においては、(i) 前文、総則、および差別行為やハラスメント行為を禁ずる各論規定を備えた綱領を策定する、(ii) 会員の市民生活全般ではなく教育・研究上で生じたミスコンダクトのみを禁止行為とする、(iii) 単なる精神論的美文の作成ではなく、実効性を備えた仕組みを作る、(iv) 所属機関で対応すべき禁止行為と学会固有の対応を必要とする禁止行為の双方を扱う、(v) 禁止行為を行った者については、企画委員や編集委員など他の一般会員に影響を及ぼす役職への就任を制限する（処分という形式はとらず、また一般会員としての資格の制限には及ばない）、と

いった方向で検討を進めていることが報告された。ついで、倫理委員会による調査活動や役職制限の実効性の有無、勤務先・所属先による対応と学会によるそれとの間のあるべき関係、理系分野における倫理委員会との異同、綱領制定の手続きなどに関し、理事の間から種々意見が出され、審議の結果、それらを踏まえつつ小委員会において引き続き検討を進めてゆくことが了承された。

## ⑫ 英文雑誌刊行に関する小委員会

小野委員長より、1月に韓国政治学会で理事長以下執行部が交代したこともあり、実質的な作業の進展はないことが報告された。

## 3. 2008年度総会・研究大会について

山口理事長より、本来ならば12月理事会において開催校からの会計報告が行われるべきところ、事務局の依頼が遅れたために本理事会に報告がずれ込んだことにつき説明がなされたのち、本理事会における会計報告が了承された。ついで、2008年度総会・研究大会開催校責任者の山田真裕前理事（空井常務理事代読）より会計報告が行われ、これを承認した。

## 4. 2008年度決算案について

決算案の審議に先立ち、2008年3月8日開催の2007年度日本政治学会第5回理事会で承認された2008年度予算案と、2008年10月13日開催の2008年度日本政治学会総会で了承された2008年度予算案との間に異同が生じたことにつき、河野前常務理事および石上前幹事から事情説明が行われた。ついで山口理事長より、(i) 前事務局の説明を諒とし、理事会承認分と異なる予算案を総会に提出したことを事後的ながら本理事会で承認すること、(ii) 日本政治学会規約第17条に従い、総会で了承された予算案を正式な2008年度予算とすることが提案され、これらを承認したのち、空井常務理事より一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2008年度決算案の説明が行われた。その後、大西監事から監査報告が行われたが、(i) 会報に掲載した予算案に変更が加えられたことを一般会員に周知すべきであること、(ii) 予備費支出に関しては理事会承認手続きを

省略すべきでないこと、(iii) 一部の委員会において見受けられる委員に対する謝金支出には疑問があることが指摘され、審議ののち、(i) 一般会員への周知は6月発行の会報において行うこと、(ii) 今年度分の予備費支出のうち明確な理事会承認がなかったものについては今理事会で承認し、今後は理事会の承認取り付けを徹底すること、(iii) 委員に対する謝金支出は原則として行わないことを確認したうえで、2008年度決算案を承認した。なお、大串理事より、収支計算書において会計年度が昨年3月1日に始まり本年の2月末日に終わっていることに関し、従前の例にならったものとはいえ、日本政治学会規約第18条と齟齬をきたしていることを問題とする意見が出され、審議ののち、事務局において規約の改正をも視野に入れながら改善策を検討することとした。

## 5. 2010年度総会・研究大会の開催日程について

桑原理事より、最終的な確定は2010年度の開始を待たねばならないものの、現時点で、同年度の総会・研究大会（於中京大学）は2010年10月9日から11日にかけての3日間の開催を予定していることが報告され、これが了承された。

## 6. 2011年度総会・研究大会の開催校について

山口理事長より、2011年度総会・研究大会を千葉大学で開催することが提案され、これを承認した。

## 7. 木鐸社との覚書の改訂について

空井常務理事より、覚書改訂に関し木鐸社と交渉中であるが、年報掲載原稿のウェブ・サイトへの転載禁止期間に関し学会と木鐸社の間に意見の違いがあることが報告され、審議ののち、著作権者の権利を尊重する全般的な社会傾向を踏まえながら引き続き交渉を進めることが了承された。また、新覚書を2009-II号から適用する場合、すでに編集作業が進んでいる同号については既定の編集方針を維持し、特集・投稿・書評・学界展望などへの頁数割当てを含む全般的な年報構成の見直しは2010-I号から行うことが了承された。



## 8. ACNetとの業務委託契約の更新について

空井常務理事より、新契約書と新見積書について説明が行われたのち、山口理事長より、今年度の実績に鑑み引き続きACNetに業務を委託すべく、新契約書にもとづき契約を結びたい旨の提案があり、これを承認した。

## 9. 2009年度予算案について

空井常務理事より、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2009年度予算案の説明が行われ、審議ののち、それらを承認した。なお審議においては、小野理事より、仮に大学当局が総会・研究大会に際し施設使用料を請求してきた場合には当該使用料は学会が支払うべきであるとの意見が出され、今後はその方針で対処してゆくことが了承された。

## 10. 入退会承認について

以下、19名の各氏を新・再入会員として承認した（事務局受付順、敬称略）。

一般会員（12名）

伊藤信哉、遠藤浩一、望月友美子、近藤隆則、

渡邊吉人、杉守慶太、神藤猛、茶谷誠一、佐竹修吉、菅原和行、木部尚志、都倉武之  
学生会員（7名）

奥田泰広、仁木研太、稗田健志、柳至、細貝亮、福嶋純一郎、甲原潤之介

前回理事会時の会員数1752名、その間の退会者は6名（うち申し出による退会4名、逝去による退会2名）であり、今回の入会承認者19名を加えた結果、現在会員数は1765名となった。

## 11. 次回理事会の開催について

山口理事長より、次回の2009年度第1回理事会は2009年6月13日（土）の午後、神戸大学六甲台キャンパスにおいて開催することが提案され、これが了承された。

## 12. 事務局報告

空井常務理事より、(i) 電子アーカイブ化につき、JST担当者との打合せが終わり、これからPDFファイルの作成作業を本格的に進める予定であること、(ii) 本年6月を目標に会員名簿を作成し、会員に配布することが報告された。

## 各種委員会委員名簿

### 2009年度企画委員会委員長

辻中 豊 (筑波大学)

#### 委員

千葉 眞 (国際基督教大学)・米原 謙 (大阪大学)・川人貞史 (東京大学)・谷 聖美 (岡山大学)・森 裕城 (同志社大学)・北原鉄也 (大阪市立大学)・秋吉貴雄 (熊本大学)・増田知子 (名古屋大学)・高橋 進 (龍谷大学)・待鳥聡史 (京都大学)・川原 彰 (中央大学)・近藤康史 (筑波大学)・鈴木一人 (北海道大学)・大矢根聡 (同志社大学)

### 2010年度企画委員会委員長

杉田 敦 (法政大学)

### 2009年Ⅰ号年報編集委員会委員長

川人貞史 (東京大学)

#### 委員

奈良岡總智 (京都大学)・福元健太郎 (学習院大学)・増山幹高 (慶應義塾大学)・待鳥聡史 (京都大学)・村井良太 (駒澤大学)・山田真裕 (関西学院大学)

### 2009年Ⅱ号年報編集委員会委員長

大串和雄 (東京大学)

#### 委員

木村正俊 (法政大学)・狐崎知己 (専修大学)・武内進一 (アジア経済研究所)・千葉 眞 (国際基督教大学)・月村太朗 (同志社大学)・根本 敬 (上智大学)・本名 純 (立命館大学)

### 2010年Ⅰ号年報編集委員会委員長

中邨章 (明治大学)

#### 委員

橋本信之 (関西学院大学)・池田謙一 (東京大学)・大山耕輔 (慶應義塾大学)・秋月謙吾 (京都大学)・小池 治 (横浜国立大学)・西川伸一 (明治大学)・菊地端夫 (明治大学)

### 2010年Ⅱ号年報編集委員会委員長

岩本美砂子 (三重大学)

### 2011年Ⅰ号年報編集委員会委員長

越智敏夫 (新潟国際情報大学)

### 2011年Ⅱ号年報編集委員会委員長

品田 裕 (神戸大学)

### 2009年文献委員会委員長

藤井德行 (兵庫教育大学)

#### 委員

青木一益 (富山大学)・中村昭雄 (大東文化大学)・外山公美 (日本大学)・沢田次郎 (尚美学園大学)・中村孝文 (武蔵野大学)・小南浩一 (北陸大学)・永井良和 (拓殖大学)・藤本一美 (専修大学)・浦部浩之 (獨協大学)・永山博之 (広島大学)・石井貫太郎 (目白大学)・青木一能 (日本大学)・酒井英一 (関西外国語大学)

### 2010年文献委員会委員長

秋月謙吾 (京都大学)

### 2009年書評委員会委員長

飯島昇藏 (早稲田大学)

#### 委員

伊藤恭彦 (静岡大学)・井上拓也 (茨城大学)・内田みどり (和歌山大学)・遠藤 乾 (北海道大学)・太田義器 (摂南大学)・小原 薫 (國學院大學)・小原隆治 (成蹊大学)・川田 稔 (名古屋大学)・松園 伸 (早稲田大学)

### 2010年書評委員会委員長

羽場久美子 (青山学院大学)

### 2011年書評委員会委員長

西崎文子 (成蹊大学)

### 査読委員会委員長

小川有美 (立教大学)

---

# 学 会 ニ ュ ー ス

---

## 副委員長・委員

非公開

## 研究交流委員会委員長

河野武司（慶應義塾大学）

## 委員

田村哲樹（名古屋大学）・山岡龍一（放送大学）・  
河野武司（慶應義塾大学）・外山公美（日本大学）・  
木村 幹（神戸大学）・岡山 裕（慶應義塾大学）・  
坪内 淳（山梨大学）

## 国際交流委員会委員長

杉本 稔（日本大学）

## 日米交流小委員会委員長

信夫隆司（日本大学）

## 日韓交流小委員会委員長

磯崎典世（学習院大学）

## 日欧交流関連小委員会委員長

若松邦弘（東京外国語大学）

## 日露交流小委員会委員長

下斗米伸夫（法政大学）

## 日中交流小委員会委員長

高原明生（東京大学）

## 日台交流小委員会委員長

川島 真（東京大学）

## 選挙管理委員会委員長

大河原伸夫（九州大学）

## 委員

伊藤洋典（熊本大学）・岡崎晴輝（九州大  
学）・熊野直樹（九州大学）・廣澤孝之（福岡大  
学）

## 平成20年度予算について

理事長 山口 二郎

平成20年度予算につきましては、2007年度第5回理事会（2008年3月8日開催）で承認され、『日本政治学会会報』55号（2008年6月15日発行）において皆様にもお知らせした予算（案）と、2008年度総会（2008年10月13日開催）でご報告した予算（案）との間に、僅かながらも異同が生じました（21-22頁掲載の2つの予算（案）をご参照下さい）。これは、2008年度総会において、2007年度第5回理事会で審議に付すべく作成中

であった資料を誤ってお配りしてしまった結果であります。その後、2008年度第4回理事会（2009年3月14日開催）では、この問題への対応が協議され、日本政治学会規約第17条に従い、総会に報告し了承を受けた予算（案）を正式な予算とすることが承認され、それに基づき作成された平成20年度決算（案）を理事会として承認しましたことを、ここにご報告申し上げます。

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 平成20年度予算（案）（2008年度総会了承）

（一般会計） (単位：円)

科 目	予算額
[経常収入の部]	
I 会費収入	10,850,000
II 雑収入	77,900
経常収入合計 (A)	10,927,900
【経常支出の部】	
I 事業費	6,020,000
1 研究会開催費	1,050,000
研究会準備金	400,000
大会プログラム集作成費	600,000
報告者礼金	50,000
2 委員会経費	520,000
年報委員会	50,000
査読委員会	70,000
企画委員会	70,000
研究交流委員会	70,000
文献委員会	190,000
書評委員会	70,000
3 印刷費	4,450,000
会報印刷費	250,000
年報印刷費	4,200,000
II 管理費	3,239,000
1 理事会経費	20,000
2 事務局経費	720,000
運営費	50,000
人件費	50,000
経常費	200,000
慶弔費	70,000
事務局移転費	350,000
3 CANPAN ACNet業務委託費	2,499,000
基本業務委託費	2,199,000
法人格取得費	300,000
経常支出合計 (B)	9,259,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	1,668,900
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
I 名簿作成積立金	600,000
II 予備費	1,000,000
その他資金支出合計 (E)	1,600,000
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	68,900
前期繰越収支差額 (G)	7,004,627
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	7,073,527

（名簿作成積立金） (単位：円)

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 本年度積立金	600,000
II 受取利息	600
経常収入合計 (A)	600,600
【経常支出の部】	
I 事業費	0
1 名簿作成費	0
2 事前調査費	0
経常支出合計 (B)	0
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	600,600
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
その他資金支出合計 (E)	0
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	600,600
前期繰越収支差額 (G)	792,873
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	1,393,473

（国際交流基金） (単位：円)

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 本年度積立金	0
II 受取利息	0
経常収入合計 (A)	0
【経常支出の部】	
I 事業費	1,840,000
1 国際交流プログラム助成費	700,000
2 企画委員会国際交流セッション	70,000
3 国際交流委員会経費	70,000
4 IPSA分担金	400,000
5 IPSA執行委員渡航費補助	200,000
6 大会開催校補助	100,000
7 国際シンポジウム開催費	300,000
経常支出合計 (B)	1,840,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 1,840,000
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
I 予備費	1,000,000
その他資金支出合計 (E)	1,000,000
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 2,840,000
前期繰越収支差額 (G)	19,059,937
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	16,219,937

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 平成20年度予算（案）（2007年度第5回理事会承認）

（一般会計）（単位：円）

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 会費収入	11,850,000
II 雑収入	77,900
経常収入合計 (A)	11,927,900
【経常支出の部】	
I 事業費	5,735,000
1 研究会開催費	850,000
研究会準備金	400,000
大会プログラム集作成費	400,000
報告者礼金	50,000
2 委員会経費	435,000
年報委員会	50,000
査読委員会	70,000
企画委員会	35,000
研究交流委員会	70,000
文献委員会	140,000
書評委員会	70,000
3 印刷費	4,450,000
会報印刷費	250,000
年報印刷費	4,200,000
II 管理費	3,039,000
1 理事会経費	20,000
2 事務局経費	520,000
運営費	50,000
人件費	50,000
経常費	100,000
慶弔費	70,000
事務局移転費	250,000
3 CANPAN ACNet業務委託費	2,499,000
基本業務委託費	2,199,000
法人格取得費	300,000
経常支出合計 (B)	8,774,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	3,153,900
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
I 名簿作成積立金	300,000
II 予備費	1,000,000
その他資金支出合計 (E)	1,300,000
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	1,853,900
前期繰越収支差額 (G)	7,004,627
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	8,858,527

（名簿作成積立金）（単位：円）

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 本年度積立金	300,000
II 受取利息	600
経常収入合計 (A)	300,600
【経常支出の部】	
I 事業費	0
1 名簿作成費	0
2 事前調査費	0
経常支出合計 (B)	0
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	300,600
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
その他資金支出合計 (E)	0
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	300,600
前期繰越収支差額 (G)	792,873
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	1,093,473

（国際交流基金）（単位：円）

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 本年度積立金	0
II 受取利息	0
経常収入合計 (A)	0
【経常支出の部】	
I 事業費	1,840,000
1 国際交流プログラム助成費	700,000
2 企画委員会国際交流セッション	70,000
3 国際交流委員会経費	70,000
4 IPSA分担金	400,000
5 IPSA執行委員渡航費補助	200,000
6 大会開催校補助	100,000
7 国際シンポジウム開催費	300,000
経常支出合計 (B)	1,840,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 1,840,000
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
I 予備費	1,000,000
その他資金支出合計 (E)	1,000,000
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 2,840,000
前期繰越収支差額 (G)	19,059,937
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	16,219,937

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 平成20年度決算（案）

### 平成20年度収支計算書（会計別）

平成20年3月1日から平成21年2月28日まで

（一般会計）

（単位：円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
【経常収入の部】				
I 会費収入	10,850,000	13,369,594	2,519,594	
II 雑収入	77,900	3,056	△ 74,844	
経常収入合計（A）	10,927,900	13,372,650	2,444,750	
【経常支出の部】				
I 事業費	6,020,000	6,396,929	376,929	
1 研究会開催費	1,050,000	990,470	△ 59,530	
研究会準備金	400,000	400,000	0	
大会プログラム集作成費	600,000	590,470	△ 9,530	
報告者礼金	50,000	0	△ 50,000	
2 委員会経費	520,000	405,508	△ 114,492	
年報委員会	50,000	50,000	0	
査読委員会	70,000	69,991	△ 9	
企画委員会	70,000	70,000	0	
研究交流委員会	70,000	6,986	△ 63,014	
文献委員会	190,000	140,000	△ 50,000	
書評委員会	70,000	68,531	△ 1,469	
3 印刷費	4,450,000	5,000,951	550,951	
会報印刷費	250,000	248,913	△ 1,087	
年報印刷費	4,200,000	4,752,038	552,038	
II 管理費	3,239,000	2,600,977	△ 638,023	
1 理事会経費	20,000	47,103	27,103	
2 事務局経費	720,000	212,374	△ 507,626	
運営費	50,000	26,540	△ 23,460	
人件費	50,000	0	△ 50,000	
経常費	200,000	66,199	△ 133,801	
慶弔費	70,000	0	△ 70,000	
事務局移転費	350,000	119,635	△ 230,365	
3 CANPAN ACNet業務委託費	2,499,000	2,341,500	△ 157,500	
基本業務委託費	2,199,000	2,184,000	△ 15,000	
法人格取得費	300,000	157,500	△ 142,500	
経常支出合計（B）	9,259,000	8,997,906	△ 261,094	
経常収支差額（C） = （A） - （B）	1,668,900	4,374,744	2,705,844	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計（D）	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
I 名簿作成積立金	600,000	600,000	0	
II 予備費	1,000,000	616,534	△ 383,466	
その他資金支出合計（E）	1,600,000	1,216,534	△ 383,466	
当期収支差額（F） = （C） + （D） - （E）	68,900	3,158,210	3,089,310	
前期繰越収支差額（G）	7,004,627	7,004,627	0	
次期繰越収支差額（H） = （F） + （G）	7,073,527	10,162,837	3,089,310	

# 学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
【経常収入の部】				
I 本年度積立金	600,000	600,000	0	
II 受取利息	600	1,113	513	
経常収入合計 (A)	600,600	601,113	513	
【経常支出の部】				
I 事業費	0	0	0	
1 名簿作成費	0	0	0	
2 事前調査費	0	0	0	
経常支出合計 (B)	0	0	0	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	600,600	601,113	513	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
その他資金支出合計 (E)	0	0	0	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	600,600	601,113	513	
前期繰越収支差額 (G)	792,873	792,873	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	1,393,473	1,393,986	513	

(国際交流基金)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
【経常収入の部】				
I 本年度積立金	0	0	0	
II 受取利息	0	0	0	
経常収入合計 (A)	0	0	0	
【経常支出の部】				
I 事業費	1,840,000	1,871,895	31,895	
1 国際交流プログラム助成費	700,000	694,355	△ 5,645	
2 企画委員会国際交流セッション	70,000	35,000	△ 35,000	
3 国際交流委員会経費	70,000	8,980	△ 61,020	
4 IPSA分担金	400,000	302,260	△ 97,740	
5 IPSA執行委員渡航費補助	200,000	431,300	231,300	
6 大会開催校補助	100,000	100,000	0	
7 国際シンポジウム開催費	300,000	300,000	0	
経常支出合計 (B)	1,840,000	1,871,895	31,895	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 1,840,000	△ 1,871,895	△ 31,895	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
I 予備費	1,000,000	2,205	△ 997,795	
その他資金支出合計 (E)	1,000,000	2,205	△ 997,795	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 2,840,000	△ 1,874,100	965,900	
前期繰越収支差額 (G)	19,059,937	19,059,937	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	16,219,937	17,185,837	965,900	



# 学 会 ニ ュ ー ス

## 平成20年度収支計算書（総括）

平成20年3月1日から平成21年2月28日まで

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合 計
【経常収入の部】				
I 会費収入	13,369,594			13,369,594
II 雑収入	3,056	1,113		4,169
III 本年度積立金		600,000		600,000
経常収入合計 (A)	13,372,650	601,113	0	13,973,763
【経常支出の部】				
I 事業費	6,396,929	0	1,871,895	8,268,824
1 研究会開催費	990,470			990,470
研究会準備金	400,000			400,000
大会プログラム集作成費	590,470			590,470
報告者礼金	0			0
2 委員会経費	405,508			405,508
年報委員会	50,000			50,000
査読委員会	69,991			69,991
企画委員会	70,000			70,000
研究交流委員会	6,986			6,986
文献委員会	140,000			140,000
書評委員会	68,531			68,531
3 印刷費	5,000,951			5,000,951
会報印刷費	248,913			248,913
年報印刷費	4,752,038			4,752,038
4 名簿作成事業費		0		0
名簿作成費		0		0
事前調査費		0		0
5 国際交流基金事業費			1,871,895	1,871,895
国際交流プログラム助成費			694,355	694,355
企画委員会国際交流セッション			35,000	35,000
国際交流委員会経費			8,980	8,980
IPSA分担金			302,260	302,260
IPSA執行委員渡航費補助			431,300	431,300
大会開催校補助			100,000	100,000
国際シンポジウム開催費			300,000	300,000
II 管理費	2,600,977			2,600,977
1 理事会経費	47,103			47,103
2 事務局経費	212,374			212,374
運営費	26,540			26,540
人件費	0			0
経常費	66,199			66,199
慶弔費	0			0
事務局移転費	119,635			119,635
3 CANPAN ACNet業務委託費	2,341,500			2,341,500
基本業務委託費	2,184,000			2,184,000
法人格取得費	157,500			157,500
経常支出合計 (B)	8,997,906	0	1,871,895	10,869,801
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	4,374,744	601,113	△ 1,871,895	3,103,962
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	0
【その他資金支出の部】				
I 名簿作成積立金	600,000			600,000
II 予備費	616,534		2,205	618,739
その他資金支出合計 (E)	1,216,534	0	2,205	1,218,739
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	3,158,210	601,113	△ 1,874,100	1,885,223
前期繰越収支差額 (G)	7,004,627	792,873	19,059,937	26,857,437
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	10,162,837	1,393,986	17,185,837	28,742,660

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 貸借対照表総括表

平成21年 2月28日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合 計
<b>【資産の部】</b>				
流動資産				
現金預金	10,268,337	1,393,986	17,185,837	28,848,160
現金	0	0	0	0
振替貯金	10,108,309	0	0	10,108,309
普通預金	160,028	1,393,986	17,185,837	18,739,851
流動資産合計	10,268,337	1,393,986	17,185,837	28,848,160
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	10,268,337	1,393,986	17,185,837	28,848,160
<b>【負債の部】</b>				
流動負債				
前受金	105,500			105,500
流動負債合計	105,500	0	0	105,500
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	105,500	0	0	105,500
<b>【正味財産の部】</b>				
前期繰越正味財産	7,004,627	792,873	19,059,937	26,857,437
当期正味財産増加額（減少額）	3,158,210	601,113	△ 1,874,100	1,885,223
正味財産合計	10,162,837	1,393,986	17,185,837	28,742,660
負債・正味財産合計	10,268,337	1,393,986	17,185,837	28,848,160

## 財 産 目 録

平成21年 2月28日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合 計
<b>【資産の部】</b>				
流動資産				
現金預金 手許有高	10,268,337	1,393,986	17,185,837	28,848,160
振替貯金 ゆうちょ銀行019店	10,108,309			10,108,309
普通預金 三井住友銀行三田通支店	50,996			50,996
ゆうちょ銀行908店	109,032			
三菱東京UFJ銀行神保町支店		1,393,986		1,393,986
三菱東京UFJ銀行神保町支店			17,185,837	17,185,837
流動資産合計	10,268,337	1,393,986	17,185,837	28,848,160
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	10,268,337	1,393,986	17,185,837	28,848,160
<b>【負債の部】</b>				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	105,500			105,500
流動負債合計	105,500	0	0	105,500
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	105,500	0	0	105,500
<b>【正味財産の部】</b>				
前期繰越正味財産	7,004,627	792,873	19,059,937	26,857,437
当期正味財産増加額（減少額）	3,158,210	601,113	△ 1,874,100	1,885,223
正味財産合計	10,162,837	1,393,986	17,185,837	28,742,660
負債・正味財産合計	10,268,337	1,393,986	17,185,837	28,848,160

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 平成21年度予算（案）

（一般会計） (単位：円)

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 会費収入	11,138,000
II 雑収入	3,000
経常収入合計 (A)	11,141,000
【経常支出の部】	
I 事業費	7,090,000
1 研究会開催費	1,300,000
研究会準備金	600,000
大会プログラム集作成費	650,000
報告者礼金	50,000
2 委員会経費	690,000
年報委員会	200,000
査読委員会	70,000
企画委員会	70,000
研究交流委員会	70,000
文献委員会	140,000
書評委員会	70,000
選挙管理委員会	70,000
3 印刷費	4,600,000
会報印刷費	300,000
年報印刷費	4,300,000
4 選挙管理費	500,000
II 管理費	3,064,000
1 理事会経費	40,000
2 事務局経費	240,000
運営費	50,000
人件費	40,000
経常費	100,000
慶弔費	50,000
事務局移転費	0
3 CANPAN ACNet業務委託費	2,700,000
基本業務委託費	2,700,000
法人格取得費	0
4 前年度会計監査量	84,000
経常支出合計 (B)	10,154,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	987,000
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
I 名簿作成積立金	200,000
II 予備費	1,000,000
その他資金支出合計 (E)	1,200,000
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 213,000
前期繰越収支差額 (G)	10,162,837
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	9,949,837

（名簿作成積立金） (単位：円)

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 本年度積立金	200,000
II 受取利息	1,000
経常収入合計 (A)	201,000
【経常支出の部】	
I 事業費	
1 名簿作成費	600,000
2 事前調査費	0
経常支出合計 (B)	600,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 399,000
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
その他資金支出合計 (E)	0
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 399,000
前期繰越収支差額 (G)	1,393,986
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	994,986

（国際交流基金） (単位：円)

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 本年度積立金	0
II 受取利息	0
経常収入合計 (A)	0
【経常支出の部】	
I 事業費	2,045,000
1 国際交流プログラム助成費	740,000
2 企画委員会国際交流セッション	35,000
3 国際交流委員会経費	70,000
4 IPSA分担金	300,000
5 IPSA執行委員渡航費補助	300,000
6 大会開催校補助	100,000
7 国際シンポジウム開催費	300,000
8 英文雑誌刊行に関する小委員会経費	200,000
経常支出合計 (B)	2,045,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 2,045,000
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
I 予備費	1,000,000
その他資金支出合計 (E)	1,000,000
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 3,045,000
前期繰越収支差額 (G)	17,185,837
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	14,140,837

## 事務局より

### 会費納入についてのお願い

年会費をまだ納入されていない方が若干おられます。何とぞ速やかにご協力の程お願いいたします。一般会員は7,500円、学生会員は5,000円です。また、シニア会員(会費5,000円)及び終身会員(一時金30,000円又は20,000円)の制度がございますので、ぜひご利用下さい。郵便振替によりまして、以下の口座番号、加入者名あてに納入をお願い致します。

口座番号：00120-2-500664

加入者名：日本政治学会

### 本号の目次

1. 日本政治学会2009年度研究会について ..... 1
2. 2009年度研究会プログラム ..... 2
3. 研究大会報告論文の公開・入手方式について ..... 9
4. 2009年度韓国政治学会派遣報告者募集 ..... 9
5. 『年報政治学』独立論文公募のお知らせ ..... 10
6. 『年報政治学』2010年度第I号特集論文公募のお知らせ ..... 11
7. 『年報政治学』2010年度第II号特集論文公募のお知らせ ..... 11
8. 日本政治学会 2008年度第3回理事会議事録 ..... 12
9. 日本政治学会 2008年度第4回理事会議事録 ..... 14
10. 各種委員会名簿 ..... 18
11. 平成20年度予算について ..... 20
12. 平成20年度決算(案) ..... 23
13. 平成21年度予算(案) ..... 27
14. 事務局より ..... 28

なお、2009年度末までに2008年度及び2007年度会費について2年連続で納入されなかった会員の方は、「日本政治学会規約」第8条に基づいて、自動的に退会扱いとなりますので、ご注意下さい。会費の納入状況につきましてご不明な点は、ACNetまでお問い合わせ下さい。

### 訃報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

- 河中 二講氏 成蹊大学名誉教授 政策分析・決定 地方自治論 1923年生。  
永井陽之助氏 東京工業大学名誉教授 国際政治論 1924年生。  
津森 立巳氏 イギリス近世政治思想史 日本中世政治史 1918年生。  
柴田 寿子氏 東京大学大学院教授 ヨーロッパ政治思想史。

2009年6月15日発行

発行 日本政治学会事務局

空 井 護

〒060-0809 北海道札幌市北区北9条西7丁目

北海道大学大学院法学研究科内

FAX：011-706-4948

E-mail：jpsa@juris.hokudai.ac.jp

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpsa2/>

特定非営利活動法人 CANPAN センター ACNet 事務局  
日本政治学会担当(住所変更・会費)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16

海洋船舶ビル8階

TEL：03-5251-3967

FAX：03-3504-3909

E-mail：ac001-jpsa@canpan.org

印刷 よしみ工産(株)